新たな東北圏広域地方計画策定に関する第６回有識者懇談会 議事要旨

日時：令和５年１２月２５日（月）
　　１０：００～１２：００
場所：東北地方整備局
　　９階会議室Ａ・Ｂ（WEB 併用）

出席委員
石井重成委員、姥浦道生委員、小笠原敏記委員、舘田あゆみ委員、田中麻衣子委員、浜岡秀勝委員、宮原育子委員

１．開会

２．あいさつ

３．議事
①新たな東北圏広域地方計画策定スケジュールについて
②新たな東北圏広域地方計画中間とりまとめ（事務局案）について
③その他

４．閉会

主な発言内容
議事
事務局より議事について説明を行ったのち、中間とりまとめ（事務局案）に関する意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

・広域連携プロジェクトの位置づけを理解して深めたいが、誰と誰が連携することなのか。特出ししている意図はどこあるのか。施策と関係しながら、そこの理解をきちんとしたい。

（事務局）
・広域連携プロジェクトは圏域内の７県が対象になっているが、広域的に関連する事業を取り上げている。１つの県内のプロジェクトではなく、南北・周辺との県との広域として、事業をあげている。他圏域との広域という捉え方ではない。

・広域にもいくつかのレイヤーがある。複数の集落をまたいで、複数の自治体を超えて、都道府県を越えてという考えもある。広く各主体間の連携を促していく。何を広域連携プロジェクトに入れて、何を個々に位置づけていくか。

・読み手が何を動かしていくのか。訴求する関係者は誰なのか。この計画の性質的に、国土交通省の事業もそうではない事業もまとめて書いている。濃淡がない。リスト化されているので何がオリジナリティなのか。何を受け取ってほしいのか。例えば都道府県同士で位置づけられているとしたら、本文にもその位置づけを書いてほしい。広域連携プロジェクトが定義づけられ、言語化を目指せたらとても良い。

（事務局）

・おっしゃる通りである。広域性は物理的な広域性であるが、都道府県を横断して実施するもの、圏域を跨いで実施するもの、圏域内の各自治体が同じビジョンに基づき広域に渡って共通に実施するものも示している。広域的な効果の影響として、特に物流、人の流れ、雇用の先進性等があることを設定している。

・都道府県や自治体にはまず読んでほしいということで理解した。広域連携プロジェクトは特に重要な位置づけと認識して良いか。

（事務局）

・広域連携プロジェクトは大事な部分なので、県・市町村に注目していただきたいところである。まとめて記載しているところには、県の方々、市町村の代表も参加している協議会に意見照会をしている。その中で広域連携として横断方向の連携を拾い出しているところである。まとめの中では最も重要なプロジェクトになってくる。

・それは本文にも書きたい。これを次の 10 年間どこがイニシアティブをとって進めていくのかも書ければ良い。協議会が推進していくのか、国土交通省なのか、広域的な座組でおろしていくのか、重要なプロジェクトを進める推進力まで位置づけられると良い。

・おっしゃる通りである。広域プロジェクトは他の取組で記載している内容をまとめているだけなのか、戦略的に記載しているように見えないと感じた。いろいろな所で取り組んでいる内容を、誰も連携させようとしていない。それを担うのがこの計画だと言っていただかないと大事なところがよくわからない。市町村、都道府県をやっていることを羅列しているように見えている。あるいは他の計画から持ってきているだけのように見える。
・プロジェクトのうちどこまでできていて、どれが現在進行中で、これから何をやっていくか、一つ一つの立ち位置がわからない。今から新たに始めることなのか。各プロジェクトで見える化していただけると良い。何年後にこうなるはずと見せられればより良い。
・非常に多く入れ込まなくてはいけないので、難しい計画だということがわかってきた。もう少しわかりやすい見せ方を検討してほしい。
・プロジェクトがいくつかあるが、この計画に挙げられるとどのようなメリットがあるのかを聞きたい。ここに挙げると国の予算が重点的につくのか。それぞれ取り組んでほしいという要望のレベルなのか。

（事務局）

・この広域連携プロジェクトの中に、名前が挙がったとしても特段予算や、国土交通省としての支援金・交付金等はない。しかし、この計画自体の位置づけが大きく、各自治体では核となるものなので財務省・内閣府の予算要求の際、後押しする材料になってくると思う。
・先ほど委員がおっしゃったように、継続している事業なのか、新たにやっていくものか分からないということだったが、もっともなご意見だと思う。当然、メンテナンス関係の部分で、現在も進めているプロジェクトもあるので、状況については区分できるように今後明確にしていきたい。

・広域連携プロジェクトの中で自治体のプロジェクト名が挙がることは、名誉なことということが良く分かった。

・参考資料３の P17「広域連携及び地域の生活を支える交通ネットワークの構築」について確認したい。「各都市が適切に機能を分担することが可能となるよう、地域の実情に応じた広域的な生活圏を行政区域にこだわらず形成する。」の部分について、要素は良いと思うが「こういう生活圏を形成するために、適切な分担を積極的に進める。もしくは積極的に進めることで、暮らしやすい生活圏の形成を目指す。」という表現にできないか検討してほしい。
・二点目は、今まで出てきた指摘と同様である。広域連携プロジェクトについても、主要な施策についても、それぞれ縦割りで施策が挙げられること自体は良いと思う。プロジェクトが合わさることで、全体としてこうなる、といった関係性が上手く見えるとさらに良い。目標があって一気にプロジェクトが下に降りてきているように見せられないか。目標の目的は大きく２つあると思う。1 つは空間的に分断されているところをどうつなげるか。もう 1 つは機能的に分断されているところをどうつないでいくのか。「広域」といろいろなところで言われているが、機能についても縦割りを単に束ねるのではなく、関係性をもう少し見せられると良いと思う。

・まず取りまとめが非常に大変だと感じた。
・他の方と私の意見が重複していたので、参考資料３、戦略的目標１についてのみ意見を述べたい。P4 計画体系図の「(１)復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現」のイメージがしづらかった。戦略的目標２、３については納得できた。戦略的目標１では主要な施策は３つ、広域連携プロジェクトも３つ記載されている。これをどのような視点で１枚にまとめたのか、わかりにくかった。主要な施策の３が復興・再生とどうつながっていくのか。どちらかというと公共事業の話である。
・各委員が言われているような各施策についての空間的な関係、時間的な関係が見えてないので、重要度が伝わりにくい。東北圏らしさがどう表現をどう出していったら良いのか。もう少し見えてくると良いと思う。

・広域連携プロジェクトの位置づけについて同じように感じた。本文で既に説明があるかもしれないが、掲載していなければ検討してほしい。参考資料３の P5 に、戦略的目標１の主要な施策２「圏域全体の防災・減災、強靭化の推進と震災経験の伝承」について、ミッシングリンクの解消の記述があった。参考資料３の P15 の戦略的目標３でも、コンパクト＋ネットワークに関する記載があった。これから 10 年先を見据えると、東北圏の道路圏はある程度つながっている

と思う。これからつなげることを目標にするのではなく、つながった上でいかに早く移動できるかという、質が重要ではないか。距離が離れたところであればあるほど、アピールできないと地域の連携が厳しくなる。全ての圏域に何分で行けるか、どれくらい短い時間で移動できるのかというところまでを検討してほしい。

・参考資料３の P5 戦略的目標１の主要な施策３「インフラの戦略的メンテナンスの推進」について、橋梁の点検等はドローンでやっているが、現在は車の走行したデータを分析することで道路の壊れ具合がわかるようになってきている。現時点で記載が無ければ、そのような言及もあると良い。

・参考資料３の P11、戦略的目標２の主要な施策２「人と自然が育んだ美しい「森里川海」の原風景の継承」について、全国的にクマによる被害が発生している。クマが山からまちなかに下りてくるため害獣としての駆除、またはまちなかに入ってこないような対策をしている。そもそもクマは、入りたくて来ているわけではなく、食べ物が不作で仕方なく山から下り来ている状況である。豊かな山であれば、そこで生活できるはずである。「クマが来ないように」という表現ではなく、「お互いにとって良い環境になるような」といった表現があると良い。人間主体ではなく生き物主体でのニュアンスにしてほしい。

・同ページの主要な施策３「陸域・海域の水環境の保全・再生と豊かな水の恵みの享受」について、グリーンカーボンよりもブルーカーボンの方が CO2 の吸収能力が高い。それをどこかに記載してほしい。吸収能力でいうと 5、6 倍は違うようだ。これからはグリーンカーボンも重要だが、ブルーカーボンはより重要である。

・参考資料３と参考資料２を見比べると、戦略的目標２と広域連携プロジェクトの名称が異なっているので修正してほしい。

（座長）

・今回は参考資料３を参照しながら重点的に議論した。P4 の体系図は仮置きだと思うが、主要な施策の下に施策小項目があって、広域連携プロジェクトが並列に置いてある。説明いただいたところでは、施策小項目１～８の下に広域連携プロジェクト案ということで書かれているが、この構成だと重みや位置づけがよくわからない。誰に向けて、誰がやるのか、ということに関わるのであれば、上位にするのか、縦につないでいくなどで各プロジェクトの位置づけがわかると良い。

・P5 の戦略的目標 1 について、難しいカタカナや略字のプロジェクトがある。本文での説明はあるのか。例えば P5 の主要な施策３「インフラの戦略的メンテナンスの推進」の中にある「地域インフラ群再生戦略マネジメント」は、どういうものなのか分かりにくかった。

・さらに気づいたところでいうと、P6 主要な施策１「東日本大震災・原子力災害からの復興・再生」の「自然環境を活かした被災地の再生」の文中にある「グリーンインフラや「Eco-DRR」の表現である。続いて P7 主要な施策２「圏域全体の防災・減災、強靭化の推進と震災経験の伝承」のうち、「災害時にも強いサプライチェーンの構築と円滑な物流の確保」の「港湾 BCP」といった表現が分かりにくい。また、P11 戦略的目標２「美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承・利活用」の主要な施策２「人と自然が育んだ美しい「森里川海」の原風景の継承」の「30by30 目標」も分かりにくい。「生物多様性保全に資する地域（OECM）の設定・管理」は環境省で進めていると思う。P13 に具体的なイメージがあるが、どういった文脈で本文に入っている

のか。

・本日見せていただいた戦略的目標と主要な施策が多くある中で、ある程度圧縮していただいていると感じる。ただ委員がおっしゃったように、どこまで進んでいるか、どこからどう手をつければ良いのか、実現するためのプロセスと主体がもう少しわかりやすくなると自分のこととして考えられるので良いと思う。広域連携プロジェクトでの位置づけは、もう少し検討いただきたい。

・参考資料３は、以前より見やすくなったと思う。先ほどからみなさんが議論されている、広域連携プロジェクトがわかりにくいことに関しては、私も同意見である。

・前回申し上げたことかもしれないが、どのように一般の方に浸透していくか。いかに机上の空論ではなく、実行していくかが大事だと思う。

・国や行政は年単位で事業を進めており、民間での KPI 達成などを指標に置かれている。それを達成するために取組を実施しているが、正直、長期的な取組と単年度の取組は相性が良くないと感じている。これから数値目標やどこに目指していくのか、明らかにしつつ連携体制をつくっていく、いかに実行の仕組みを作っていくかが、知恵の出しところだと感じる。

・資料には「体制をつくる」という文言がある。会議体では主要な人がでてくるが、それだけでなく実行するための持続可能な情報共有の仕組みがないと、なかなか動くことが難しいと感じている。実現に近づくためにそこまでの言及、示唆があると良い。

（座長）

・誰が実行していくかが重要なテーマである。現在事務局の計画では、まだそこまで見えてこない。

・この計画の中でどこまでやりたいのか、私達や事務局がどこまで真摯にそこを目指すのかに尽きる。実効性をもたせるためにやるべきことは、これまでも議論してきた。網羅的な計画であることを担保しながらも、真にやるべきこと、推進することを明らかにする。それが現在どのような状況になっているのかを勘案しながら、推進するべき主体を定義付ける。これが実効性だと思う。広域連携プロジェクトに対して、どこまで本気にやり遂げる意思があるか、この計画で示していくことが必要ではないか。最後はリーダシップの問題だと思う。

・そういった議論の調整はどのような予定になっているのか。主要な施策の観点をベースとして進めていくのだと思う。地域によってスピードの差はあるだろうが、広域連携プロジェクトは実際にやってみて「こんなに素晴らしいまちができた」というような、パイロット的な取組のイメージをしていると思うが、そうではないのか。そのあたりの位置づけが見えづらい。

・重要度、何を優先するか、もっと絞った計画でも良いのではないか。先ほどの話だと、資料に書いたからといって予算が取れる訳ではない。東北圏として今後 10 年で何を強化していくか、優先順位を示した方が分かりやすい。

・東北圏の中でも太平洋側で重要なこと、日本海側で重要なところ、連携でやっていかなくてはいけないことがあるかと思う。情報量が多く感じる。内容を書かないといけないという発想が

あるだろうが、若い人が一目見て、今後 10 年何に力を入れていくのかが伝わることが重要であると思う。もっとシンプルにできるのではないか。何が重要かは検討の必要がある。

（座長）

・情報は整理した方がいいと思う。書いていないと予算取りのときに大変だからという理由で、全ての内容を記載してしまったように見える。

・広域地方計画であるので、広域連携が大切だと思っている。他の委員がおっしゃっていたように、この構成だと縦に流れていってしまい、横のつながりが見えにくい。広域で連携することがこの計画の一番の肝だとすると、横軸になるものは、共通の器、プラットフォームになるかもしれない。

・狭い言い方をすると、ツールとしてデジタルを横軸でつなげるとか、もう少しダイバーシティな考えだと、国際化も女性・老人のなど、みんながつながっていくイメージ。一つ一つ見ていくとつながっているように感じるが、まだ見えてこない。みんなでつながっていく構想図があると良いと思う。

・他の委員が触れていた、若い人にもわかるようにということが一つのポイントだと思う。最終的には冊子というより、参考資料３のようにまとめられたパワーポイント資料で見てもらうようになると思うが、若い人がどこまでイメージできるだろうか。丁寧すぎるくらいのスライドがあると出前講義などで、わかってもらえるのではないかと思う。詰め込みすぎた状態では、取り組むことが多い印象を与えるだけでなく、具体的にもわかりづらい。解説用の資料は、これから作る予定なのか。大変な作業だと思うが、作っていただけると良いと思う。

（事務局）

・今回中間とりまとめはないが、今後は概要版、パンフレットを作る準備はしている。出前講座などのパワーポイント資料の作り込みまでは辿り着いていない。現行計画の出前講座は実施しているので、新たな計画でもそのような資料は作る予定である。

・参考資料３、P5 戦略的目標１「復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現」の後の、P6、7 の説明であれば、1 枚ではなく複数枚、10 枚程度になるようなイメージなのか。

（事務局）

・枚数まではわからない。

・それぞれの項目について、「今まではこう目指していたけど、ここが上手くいっていないから、これからはこう目指す」というストーリーがあるとわかりやすい。初めて聞く中学生や高校生がわかる程度だと良いと思うので、検討いただきたい。若い人からのメッセージ、前向きなコメントも来るかもしれない。聴くだけではなく、参加してもらうためにわかってもらうことが重要である。

（事務局）

・先ほど他の委員からのご質問「新たなプロジェクトは今回の内容に反映させているのか」について、今回取りまとめている事業は、本文にも記載しているが、計画期間として 2050 年、さらにその先の長期を見据えつつ、策定から今後 10 年間を想定している。これから実施するプロジェクトは入っていない。現時点で動いている事業を掲げており、必ずしも予算的に 100 パーセント認められているものではない。新規でチャレンジするような計画は、現行の広域地方計画や全国計画にも記載しておらず、他の圏域も同様である。

・見せ方の問題もあると思う。一つの地域を具体的に取り上げて、このようなまちに変化するということが伝われば、他の地域でもやって行こうという気持ちになるのではないか。そうなれば広域連携プロジェクトの意味があると思う。

・関係人口、地域コミュニティのマッチングのための調査をしているが、各自治体の向き合い方は市町村によって変わると感じている。町内会でも担い手としてやっていることもある。防災、地域づくり、自然などがそうである。担い手として自治体だけでなく町内会長も一緒にやっていくものだと思うが、温度感がバラバラのようだ。
・まちのことは地域の方たちに任せて、手伝うのが自治体の役割だと思うが、関わり方として引きで見ているように感じる。方向性を提示しても、地域の方が自分たちだけで取り組むのは大変なことだと思う。一方で、自治体は地域の方がどう思っているのかと感じているようだ。お互いの思いは同じでも、宙に浮いているような状況ではないか。
・具体的に話が進みやすくするためには、事例の力が参考になるだろう。具体的な連携の仕組みや当事者意識をもつための、工夫があると良いのではないか。

・確認ではあるが、最後に防災について述べたい。最近よく「事前復興」がキーワードとして取り上げられている。特に国土交通省から取組を求められている状況だと認識している。南海トラフ地震だけでなく、東北地方でも東日本大震災があり、今後 1000 年安全かというと、決してそうではない。千島海溝があり、日本海側でも地震があったばかりである。津波のリスクや水害も同じようにキーワードを入れられたら良いと思う。

（座長）

・今後 10 年といったときに、人手不足が顕在化していく中で、東北圏でいろいろな事業が走っていて、東北の未来を良くするための圏土づくり、広域連携プロジェクトが重要だと思う。少ない担い手で実現していく、計画によってできた成果を享受できる人たちがどのような人か。
・実際の事業の進め方の中で、常に人口減少、人手不足がまとわりつくだろう。これを解決していきながら東北を豊かにしていく目標をもっていくことが大事ではないか。そのため、これまでの計画の作り方と違ってきても当然だと思う。そこを常に意識していくと良い。
・皆様から表現のご指摘、方向性についても多くのご意見をいただいた。事務局としてまとめていくのは大変かもしれないが、東北からしっかりしたものを作っていけるようにしていきたい。

以上